

越前市役所に入庁して6年目。現在私が所属している『市民協働課ダイバーシティ推進室』にもある『協働』というワード。この部署に来るまで聞き馴染みのない言葉でしたが、公務員として仕事をするうえでも、一県民として地域活動をするうえでも、とても大切な言葉だと気づきました。今回は自分が活動してきた中で得た知見などを通して『協働』について気づいたことを紹介したいと思います。

『協働』ってなんだろう？ —自分が活動する中で見えてきたもの—

福井県本部／越前市職員組合・丹南市民自治研究センター 仲保 咲哉

きょうどう 1. そもそも『協働』とは何か？

「きょうどう」と聞くと多くの方は「共同」や「協同」を思い浮かべると思います。文字を見てもそんなに意味に違いがないと感じ、私自身混同して使いがちですが、実際に調べてみると意味も使い方も違うことが分かりました。

- ①共同…複数の人や組織が同じ目的のために一緒に行うこと。
- ②協同…協力して同じ目的を達成すること。複数の人または団体が、力を合わせて物事を行うこと。
- ③協働…同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと

①共同では、「共同経営」「共同開発」のように同じ目的に対して、複数の人が対等な立場で物事に取り組む、協力することを指しています。他にも「共同スペース」など誰もが対等な立場で利用できる場合にも使用されます。

②協同では、「協同組合」に代表されるように複数の人または団体が、力を合わせて協力することを指します。協同が用いられる場合は各々の役割が決まっている事が多く、例として農業協同組合の場合は「農業振興や利益向上」という1つの役割に対し、農産物を生産、供給する生産者と生産者に対し補助金の交付や生産指導をする組合職員が互いに協力して事業に取り組んでいることが挙げられます。

③協働では、単語の中にもあるように同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くことを指しています。協同との違いは、協働の場合、事前に各々の役割が決まっておらず、それぞれの得意分野を活かしながら一致団結し、力を合わせて物事を行うことを表します。市民協働についても我々自治体職員が時には企業、時には学生、市民団体などと1つの目的に向かって活動を行う際に用いられます。

このように見ていくと地方自治体にとって一番関わりが深いのは「協働」ということが分かります。ここからは私自身の活動を通して「協働」について深掘りしていきたいと思います。

2. 協働事例①職場内での活動

(1) 越前市役所IJU課

越前市役所IJU課とはI・J・Uターン経験者かつ入庁1～3年目の職員で構成される市の行政組織には含まれないバーチャルな課。若者であり、移住等の当事者である職員が“ヨソモノ目線”で越前市の魅力をSNS等で発信、地域と協働してイベントへの参加や企画運営を通して地域の皆さんと“繋がる、

繋げる”活動を行っています。私も越前市外から就職した当事者として入庁1、2年目の時にIJU課に参加し活動を行ってきました。その中でも代表的な事例を紹介します。



令和3年度IJU課メンバー

①着物でたけふ菊人形を散策！

越前市を代表するイベント「たけふ菊人形」。お恥ずかしい話、入庁当時はまだ行った事ありませんでした。そんな中、IJU課メンバーでたけふ菊人形に行き、イベントのPRをすることに。そしてせっかく行くなら市民団体とコラボして活動したい！という思いから越前市内で着物を着てサークル活動をしている市民団体「きものっこ」とコラボし、着物をお借りして着付けの指導をしていただきました。着物に着替えた後はたけふ菊人形へ向かい、会場内でPR活動や写真撮影を行いました。当日は地元のケーブルテレビ局であるこしの都ネットワーク（旧：丹南ケーブルテレビ）にも番組で取り上げていただき、イベントのPRに繋がりました。着物を着るのも初めての経験だったので、良い経験になりました。

そして、当時開催70周年だったたけふ菊人形も今年開催75周年を迎えます！期間はふくい自治研開催後すぐの10月9日（金）～11月8日（土）までです！ぜひご来場ください！



IJU課メンバーときものっこで撮った集合写真

②越前和紙でフォトスポット！？#IJU課つながり大作戦

IJU課で「つなぐ」をテーマに越前市を代表する伝統的工芸品「越前和紙」を使ったペーパーフラワーでフォトスポットを作成しました。IJU課のことを多くの方に知ってもらうだけでなく、撮った写真は『#IJU課つながり大作戦』のハッシュタグを付けてInstagramで発信してもらい、より繋がりを広げる工夫も行いました。フォトスポットのペーパーフラワーは全てIJU課職員で一から手作りして、レイアウト・貼り付け作業を行いました。一月ほど市内公共施設にて展示させていただき、後半はクリスマスに近いこともあってバルーンを加えたアレンジも行いました。



③IJU課も越前市パートナーシップ宣誓制度をお祝い！

越前市は2022年10月1日に県内自治体で初めて『パートナーシップ宣誓制度』を導入した市でもあります。当時導入記念事業として、企画展示を行うことになったところ、担当課である市民協働課ダイバーシティ推進室からIJU課でも何か展示を行ってほしいという依頼を受けました。そこで、以前作成したフォトスポットを利活用して再度フォトスポットを作成しました。展示には毛糸玉で作ったハートと『あなたらしく』を意味する『Be Your self』のメッセージを入れました。同じ行政の立場で市民協働課ダイバーシティ推進室と協働して取り組みを行うことができました。

越前市役所IJU課は2022年度末で事業が終了してしまったので現在は解散していますが、入庁1年目から私が関わった2年間の間にも企業、市民団体、行政と協働した取り組みができて、数年経った今でも印象に残っています。



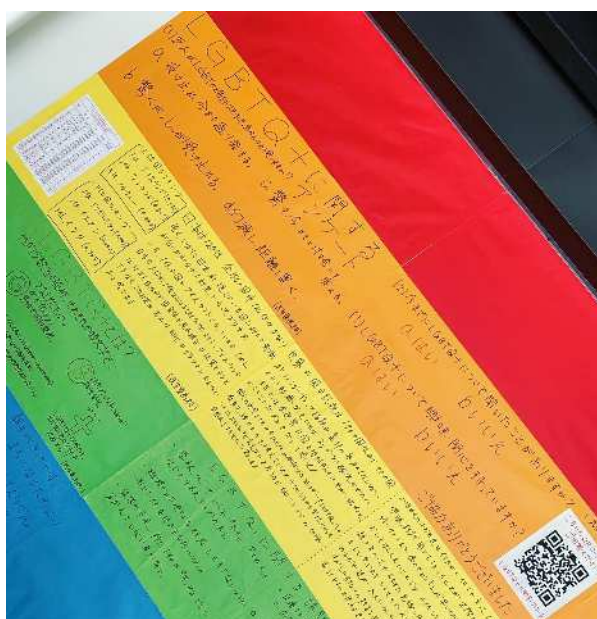
フォトスポット前で撮ったIJU課メンバー

(2)にじかべ

6月はLGBTQ+の文化と権利を祝い、理解や啓発を促す「プライド月間」として世界各地で活動やイベントが実施されています。越前市役所でもプライド月間に合わせて取り組みを実施しました。「にじかべ」は越前市役所 今立総合支所（あいばーく今立）にある駐輪場の壁一面を越前和紙でLGBTQ+の象徴である6色の虹色に装飾した取り組みです。準備から作成まで越前市、越前市職員組合、越前市内でLGBTQ+の理解啓発活動を行う市民団体なろっさ！ALLYえちぜんが連携して実施しました。私は市役所職員、市民団体メンバーとして準備から設置までお手伝いをさせていただきました。事業にかかった費用については越前市職員組合が負担。和紙であることを活用して地元高校生に直接メッセージを書いてもらう、LGBTQ+に関するアンケートも実施、啓発を図りました。市民、団体、学生、組合、行政が協働した取り組みに、当時の地元地方紙や報道でも大きく取り上げられ、とてもインパクトのあるイベントになりました。



にじかべ前で撮った写真



地元高校生のアンケート

(3) One World Sports Day～みんなでともだちになろう！国際交流運動会～

最後に私が仕事で担当している多文化共生の取り組みをご紹介します。越前市には2026年6月1日現在6,393人の外国人市民がおり、国籍別で見ると7割はブラジル国籍の方になります。また、これは市人口の約8パーセントに当たり、割合だけでなく人口数も県庁所在地で総人口が3倍以上多い福井市を抜いて1位となっています。そんな中、外国人を多く雇用している企業に勤めている外国人従業員の方から「外国人市民と日本人市民が交流できるイベントをやってほしい」と要望が出ていると声掛けがありました。越前市では現在「第2次越前市多文化共生推進プラン」を策定し、「外国人市民、日本人市民のニーズに合った講座やイベントの開催による交流促進」を重点施策として位置づけ、より実効性のある多文化共生の推進を図っています。この相談をきっかけに市内で国際交流のイベントや多文化共生の事業を実施している越前市国際交流協会のミーティングの中で当イベントのアイデア出しから行いました。その際、ブラジルにルーツのある参加者から、『かつて日本人コミュニティがブラジルで定期開催していた運動会を参考に越前市でも実施してみたい』と意見が出たため、外国人市民と日本人市民が協力して競技に取り組み、言語や文化の壁を越えたコミュニケーションの促進を図るとともに、相互理解を深めることや、地域社会における一体感の醸成を目的として、言語の必要ない種目を中心に運動会の実施をすることに決まりました。しかし、企業から話があったのが2024年12月、イベント内容が決まった時点で既に2025年の3月だったため、2025年度の当初予算に計上できるはずもなく市の予算は0、イベントも1から企画をすることになりました。その中で今回の事業は市だけでなく企業はじめ実行委員会を作って実施する方向になり、最終的に実行委員として企業3社+オブザーバー1社、越前市国際交流協会、外国人有志（ブラジル国籍）2名が集まりました。回によってはゲストとして越前市ヘインターンシップに参加していた大学生や外国人有志にも参加いただき、約5か月間にわたって準備を進めてきました。企業からは普段外国人をたくさん雇用している現場目線からの意見、外国人有志からも「日本人との活動時間の違いから開催時間を遅らせた方がよいのでは」など意見をいただき、市だけで企画していたら出てこないような意見もたくさんいただくことができました。先ほど上げていた実施にかかる予算については、市内企業を訪問しお願いをしたところ、市内企業4社から協賛をいただくことができ、より充実したイベントへの実施につなげることができました。また、インターンシップ生にはイベント当日に使用するプログラムの作成をお願いし、言語が無くても分かるように、図やピクトグラムを使用した注意書きをはじめ、今回のイベントの趣旨である『国籍、文化、年齢を超えて参加できる』に沿ったプログラムを作成いただきました。越前市国際交流協会には会場で使用する場合の案内表示の翻訳や実行委員会参画企業とタイアップでのSNS広報、キッチンカーの配置にあたり、出店者との連絡調整を行っていただきました。当日参加者は100名。参加者も日本人と外国人で半々ずつとなっていました。市を応援したい想いから実施種目であったパン食い競争のパンは市内の業者から購入し、企業応援にも繋げました。その他大玉転がしでは福井のPRを兼ねて恐竜の着ぐるみを着てレースを行い、会場外には食を通じた交流のために外国料理のキッチンカーも配置しました。キッチンカーの配置手続きはなかなか出来ない経験だったので、とても印象に残っています。ボランティアスタッフには自ら志願した高～大学生、企業の職員をはじめ30名を超える方に協力いただき、イベントをスムーズに進めることができました。今回のイベントでは企業、学生、市民団体、行政が各々の持ち味を出して、11月16日に開催までもっていくことができました。もちろん当日実施してわかったこと、準備が足りなかったことはありましたが、地域協働、多文化共生の取り組みとして、大きな成功を納めた事業だったと担当として私は感じています。

今年も秋ごろの開催に向けて準備を進め始めたところです！今年は県内の大学からも実行委員を選出いただきました。よりパワーアップした形で実施できることをとても楽しみにしています。



3. 協働事例②職場外での活動

(1) なろっさ！ALLYえちぜん

なろっさ！ALLYえちぜんは越前市内でLGBTQ+（性的マイノリティ）の理解者、支援者、味方などを意味するALLY（アライ）を増やす活動やLGBTQ+の理解促進のための活動を行っている市民団体です。2022年6月から活動し、今年で5年目になります。私も立ち上げから運営に深く関わってきました。その中で大きな取り組みを紹介させていただきます。また、えちぜんの他にふくい、いけだ、さばえの3団体があります。年に一度LGBTQ+を題材にした映画放映とトークショーを行う「福井LGBTQ映画祭」を合同で企画し、LGBTQ+を知ってもらうきっかけづくりや理解推進にもつなげています。今回はなろっさ！ALLYえちぜんで私が参加した協働事例を紹介したいと思います。

① 祝！越前市パートナーシップ宣誓制度導入記念「にじいろ写真撮影会」

県内自治体初のパートナーシップ宣誓制度スタートを記念し、なろっさ！ALLYえちぜん主催でにじいろ写真撮影会を実施しました。当日はレインボーのものを身につけて集合写真を撮ったほか、制度導入に関するトークセッションなども開催され、市全体で導入のお祝いと県内での制度拡大を願いました。そんな思いもあってか、現在は県内9市全てと1町、そして県まで導入が拡大しています。市民、行政それぞれができる役割を持って取り組めたイベントでした。



集合写真



撮影会での写真

② にじいろクリーンアップ

にじいろクリーンアップはなろっさ！ALLYえちぜんが発足した時から取り組んでいるイベントで、虹色の物を身につけ、越前市内で一番大きい武生中央公園の遊具清掃やゴミ拾いをする活動です。メンバーはじめ市民、学生や地元企業である福井村田製作所の社員にも協働いただき、継続的に実施できております。



2023年ににじいろクリーンアップを実施した際の写真

③ファッションショー「Your Stage」への出演

越前市に本社がありファッションブランド「axes femme」などを全国展開している株式会社IGAが2022年から企画しているファッションショーに地元の市民団体ということもあり、オファーを受けて継続的に参加しています。本イベントでは学生、市民、団体、外国人といった多種多様な出演者でファッションショーを実施しています。当日は市内高校生が作成した洋服の発表やファッションショーへの参加など、若者の活躍を地元企業が後押しするのものと協働の取り組みとして素晴らしいなと思いました。私含めなろっさ！ALLYえちぜんメンバーも、好きな洋服を着てLGBTQ+コミュニティや多様性を象徴するプライドフラッグを振って参加するなど、より多くの市民の方へ啓発を促せるよう取り組みました。



2024年にファッションショーへ参加した際の写真

4. 協働事例③自治労福井県本部との活動

(1) ありけん（組合のあり方検討事業）

自治労福井県本部では2022年度から2024年度まで「ありけん」（組合のあり方検討事業）にて県内9市から20代～30代前半くらいの職員を集めて年間ごとにテーマを決めて活動を行っていました。活動意義としては、①比較的年齢の近い他自治体職員と同じ目的を持って行動することで、意識の共有やコミュニティの形成を図ること②現場に足を運び、五感を使って感じることで資料だけでは得ることのできない経験と意欲を培うことを目的として行政課題の探究活動を行ってきました。私も2023年度から参加してたくさん取り組みを行ってきたので、今回ご紹介させていただきます。

①ありけん 2023

ありけん 2023では、「こどもの権利について知ろう！～こどもまんなか社会の実現に向けて～」をテーマにこども支援や子どもの権利条約を課題研究として取り組みを行いました。現地研修では県内のフリースクールを実際に訪問してこどもたちと遊ぶ、夕食を作ってみんなで食べる体験をしました。また認定NPO法人福井県子どもNPOセンターと連携して、共催事業である「こどもフェス」の運営に入らせていただき、ありけんメンバーでもひとつブースを持たせていただきました。こども目線で子どもの権利条約を学ぶためにはどうすればよいかメンバーで考え、発泡スチロールを活用し、パズルをはめることで子どもの権利条約の40の目標が学べる等身大パズルの作成を行いました。当日パズルに参加したお子さんにガチャガチャをしてもらい、出た内容に応じてお菓子をプレゼントする体験ブースに加え、保護者向けにアンケート、会場内で募金活動も行いました。地域に出るだけでなく他団体と協働でイベントを実施できたことは自分にとっても大きな経験となりました。



②ありけん 2024

ありけん 2024では「環境、平和、人権」の課題研究のほか県内9市の職員向けに「究極の交流会」を企画することを目標に活動を行いました。環境、平和活動としては原子力意識調査、クリアランス金属の活用に自主的に取り組む福井南高等学校にありけんメンバーで訪問し、生徒と意見交換を行いました。学生と関わりを持つ機会があまりなかったのも、とても良い経験になりました。究極の交流会についても活動当初から計画を立てて、メンバーごとに役割分担をして県本部の職員さんのサポートを受けながら準備を進めてきました。当日は県内8単組30名ほど参加いただき、県本部執行委員長から「公務職場におけるみなさんの収入のハナシ」をテーマに講演をいただいた後、グループごとに職場での課題共有などを行いました。夕食はみんなでバーベキューをして、会場内でメンバーがお酒を作る「ありけん酒場」もオープンし親睦を深めました。その後交流会としてメンバーが考えた県内自治体にまつわるクイズ大会を開催しました。今回の交流会では単組間のつながりを強めるだけでなく、メンバー間の絆も強まりました。ありけんでは自治労福井県本部と自治体職員が協働でイベントや企画に取り組めたことで、たくさんの団体、学生などとのつながりを持って仕事では経験できない体験をたくさんさせていただきました。



交流会での写真

(2) 自治労福井県本部ユース部

2025年度からは県本部ユース部の中にありけんが統合する形になり、より交流・学習をメインに活動していきました。夏には県内の市で一番南に位置する小浜市にて学習会を実施しました。近い担当所属のグループで固まり、ざっくばらんに労働環境の話、福利厚生の話など市ごとの状況を共有することができました。秋には一番北に位置するあわら市にて、新入組合員交流会を実施しました。座学でのグループワークのほか、「ゆるふわ運動会」と銘打ってスポーツ交流も図ることができました。夜の懇親会では前回のしまね自治研にて福井市職の有志が実施していた「公務員スナック」を「スナック～公務員の休日～」に名称を変えユース部メンバー運営のもと実施し、参加した組合員からもとても好評でした。自治体職員だけで交流を図ることはなかなか難しいですが、自治労福井県本部と協働できたことで、これらの活動も実施することができました。



小浜市での学習会



あわら市での交流会

5. 『協働』^{きょうどう}って素晴らしい！

これまで、いろいろ地域での活動や仕事を通して、立場も年齢も国籍も性別もそれぞれ違う方とたくさん活動をしてきました。もちろん目的を達成するまでに準備作業が大変なことや、目的は同じなのに意見が合わなかった事も多々あります。しかし、その度に対話を重ねると、もっと良い物にブラッシュアップされるし、メンバーのつながりも強くなります。これは『協働』ならではの感覚だと思います。また、各々の個性が発揮されるのが『協働』の素晴らしいところだなと思いました。そして、私自身一番感じるのが一度『協働』して出来たつながりは消えることなく、今後も大きな財産として残り続けていることだと思いました。ぜひ皆さんもたくさんのつながりの中で『協働』してみてください！

参考文献

[共同・協同・協働・協力の違い | 意味・使い方 \(例文つき\)](#)

[越前市役所IJU課 - 越前市](#)

市役所から飛び出してみよう！-ボランティア・市民活動を仕事に生かす-福井県本部/越前市職員組合・仲保咲哉 第40回地方自治研究全国集会（しまね自治研）